

## 第61回国立大学法人奈良女子大学経営協議会議事要録

日 時 平成30年11月26日(月) 14時57分～17時24分  
場 所 第一会議室(事務局管理棟3階)  
出席者 今岡学長, 藤原理事, 小路田理事, 小川理事, 井深理事,  
井岡委員, 尾池委員, 松本委員, 村岡委員, 山川委員  
欠席者 牧田委員  
列席者 岩阪事務局次長/総務・企画課長, 太田情報管理活用監  
桑原国際課長, 川村研究協力課長, 西田財務課長, 清水施設企画課長,  
鱸学務課長, 中窪学生生活課長, 矢野学術情報課長,  
荒堀総務・企画課課長補佐, 境総務・企画課総務係長  
議 長 今岡学長

議事に先立ち,

- (1) 第60回経営協議会(平成30年7月25日開催)記録を確認。
- (2) 報告事項11. の意見聴取に人間文化研究科長が列席予定であることを説明。

### 審議事項

#### 1. トランスジェンダー学生の受入れについて

小川理事から, 資料1, 参考資料1及び参考資料2により, これまでの検討状況と今後の予定について説明があり, 委員に対して意見を頂きたいとの依頼があった。

山川委員からは, FTMの卒業生など, 本学の状況を知ったトランスジェンダーの方の意見を聞くことができれば, 参考になるのではとの意見があった。審議の結果, 性自認が女子の者を受け入れる方向で引き続き検討することを承認した。

#### 2. 工学系学部の設置について

小路田理事から, 資料2により構想内容について説明があり, 他大学の動向や大学入試改革と時期を合わせることによる相乗効果により受験生へ効果的な広報ができることを鑑み, 当初予定より1年前倒しし, 平成33年度設置に向けて作業を進めたいとの提案があり, 審議の結果, これを承認した。

#### 3. 役員の平成30年12月期に支給する勤勉手当の勤務成績評価について

学長から, 国立大学法人奈良女子大学役員給与規程に基づく勤勉手当の成績率の取り扱いについて資料3により説明があった。なお, 資料中の優秀な場合の支給割合●(クロマル)は改正給与法による人事院規則改正後に確定するとの補足説明があった。

続いて, 勤務実績の参考とする平成29年度に係る業務の実績評価結果について資料4-1により報告があり, これにより, 12月期に支給する役員の勤勉手当の勤務成績評価について諮られ, 審議の結果, 役員全員に標準(勤務成績が良好)である100分の92.5を適用することとした。

4. その他  
特になし。

#### 報告事項

1. 奈良教育大学との連携協議について

学長から、資料5により、文科省の国立大学の一法人複数大学制度等に関する調査検討会議の審議概要及び第2回会議で実施された本学と奈良教育大学のヒアリング内容について報告があった。

2. 平成29年度に係る業務の実績に関する評価の結果について

小路田理事から、資料4-1から4-4により、平成29年度に係る業務の実績に関する評価結果について、4項目すべて順調に進んでいるとの評価を受けた旨の報告があった。

3. 平成29事業年度財務諸表の承認について

井深理事から、資料6-1及び6-2により、平成29事業年度財務諸表及び翌事業年度への繰越しについて承認を受けた旨の報告があった。

4. 平成31年度概算要求事項について

井深理事から、資料7-1により、次年度国立大学関係概算要求の概要について説明があった。また、資料7-2により、機能強化経費配分に係る平成31年度国立大学法人運営費交付金の重点支援の評価結果(原案)について本学は全ての項目でb評点の評価を受ける方向で進んでいるとの報告があった。

5. 労働基準監督署からの指摘に対する対応等について

井深理事から、労働基準監督署からの指導票及び是正勧告に対して資料8-1及び資料8-2のとおり対応したとの報告があった。また、これに関連し、資料8-3により教員の週休日・休日における出張の取扱いの見直しを行ったことの報告があった。

6. 平成29年度監事監査結果及びそれに対する対応状況について

井深理事から、資料9により平成29年度監事監査結果の説明があり、中間時点での対応状況について報告があった。

7. なでしこ基金について

井深理事から、資料10-1により、なでしこ基金の受入状況及び使途等について報告があった。また、資料10-2により、学生寮の建て替えプロジェクトの活動経過について報告があった。

8. 学内諸規程の制定等について

学長から、資料11により、11月の役員会で審議予定の規程等及び前回の経営協議

会後に制定済の規程等について報告があった。

#### 9. 国立大学法人を取り巻く最近の動向について

学長から、資料12-1から資料12-4により11月2日に開催された国大協通常総会で協議された人事給与マネジメント改革に関する基本的な考え方及び、財務省の大学への予算配分の方角性に対しての国大協の声明について説明があった。また、2020年度に制度化が予定されている給付型奨学金制度について情報提供があった。

#### 10. 本学の現状等について

学長及び各担当理事から、次の事項について報告があった。

- (1) 大学院副専攻「文化工学プログラム」について：資料13-1
- (2) 年次基礎データ集について：資料13-2
- (3) 創立百十周年記念事業について：資料13-3
- (4) 広報誌Today Vol. 31：資料13-4
- (5) 新聞報道について：資料13-5

#### 11. 大学院人間文化研究科の取組について

学長から、人間文化研究科長の紹介の後、人間文化研究科長から資料14-1及び14-2により大学院人間文化研究科博士後期課程の改組構想について説明があり、意見を頂きたいとの依頼があった。

井岡委員からは、構想内容については賛同しているので進めていただきたいと思うが、経営面を考えると入口戦略が非常に重要であるとの発言があった。

尾池委員からは、趣旨は理解したが、学外からの入学者をどれだけ取り込めるかという点がポイントであるとの発言があった。

松本委員からは、後期課程の専攻名が前期課程に比べて漠としており、在学中にどのような力を身に付けたのかイメージしづらい。社会的ニーズに対して役立つ力を具体的に強く示すことができればより一層魅力的なものになると思うとの発言があった。

村岡委員からは、今回の構想内容は、日本の産業界が海外と競うために考えていかなければならない縮図のようなものであると感じる。俯瞰して物事を考え進めていく力が社会から求められており、今回の構想と合致しているので、この方針で引き続き進めて欲しいとの発言があった。

山川委員からは、煙突型となる改組は内部進学者にとって非常にわかりやすいのでよいと思う。複合系プログラムについても賛同するが、主専攻と副専攻の位置付けが明確になるよう制度設計して欲しい。長期履修制度は女子大学ならではの必要な制度であり、今後ニーズが増えることも予想されるので、長期履修制度のニーズを考慮に入れた各専攻定員の見直しや、専攻定員の特別枠の文科省への要求について検討されてはどうかとの発言があった。

#### 12. その他

特になし。

以 上